



令和7年（2025年）4月3日 公表
令和6年版 山口県日本海側重要魚種の資源評価

ヤリイカ（対馬暖流系群）

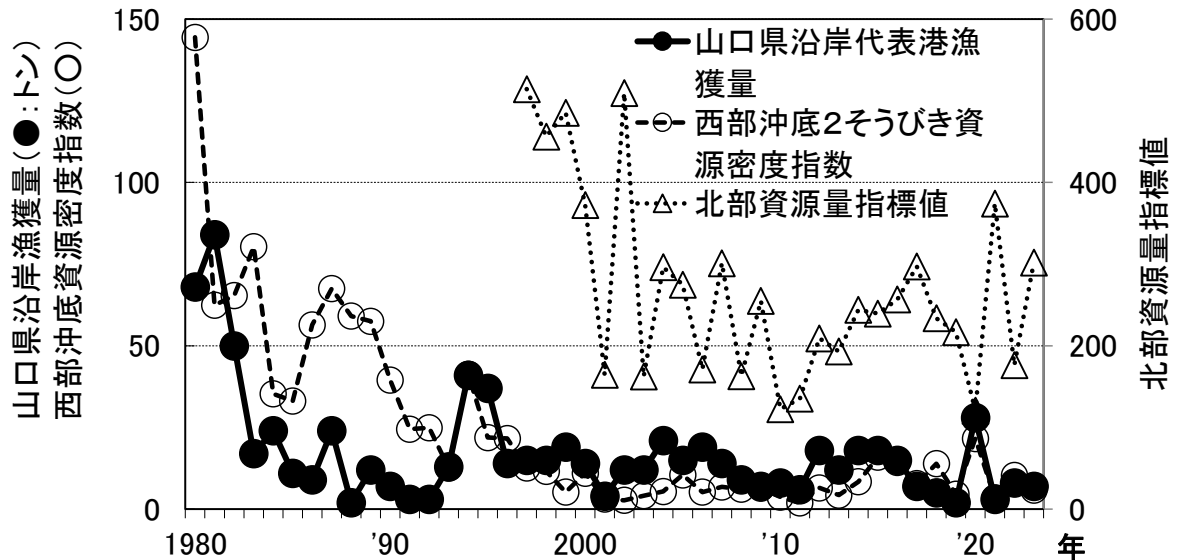


図 山口県日本海代表港のヤリイカ漁獲量、西部沖底2そうびき資源密度指数及び北部資源量指標値（（国研）水産研究・教育機構資源評価報告書）の推移

【漁業】ヤリイカは沖合底びき網および沿岸のいか釣りや定置網で主に冬～春に漁獲される。沿岸で漁獲されるのは産卵群である。

【漁獲量】山口県日本海沿岸代表港の漁獲量は、1980年以降では1981年の84トンを経ピークとしてその後急激に減少し、1983年～1993年には24トン以下になった。1994年及び1995年にはいったん40トン前後に増加したが、1996年以降2019年まで再び21トン以下に減少した。2020年には28トンとやや増加したが、2021年以降は8トン以下に低迷している。

【資源状態】本系群の資源水準・動向は、西部海域（福井県～山口県）では沖合底びき網（2そうびき）の資源密度指数が2000年以降低い値に留まっていることから、低位・横ばい、北部海域（北海道～石川県）では2023年の資源量指標値から中位・増加と判断された。系群全体では、近年の漁獲の中心が北部海域にあることから、資源水準は中位、資源動向は増加と判断された。

資源の水準・動向		2023年漁獲量 (トン)	2025年 ABCtarget (トン)	2025年 ABClimit (トン)
水準	動向			
中位	増加	2,166	1,340	1,675